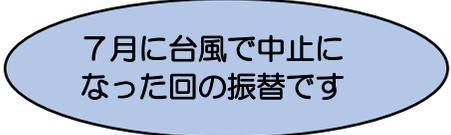


平成30年度 聴覚障害者のコミュニケーション教室（9月以降分）

加齢で耳の聞こえに不便を感じるようになった方、病気や薬の副作用などで聴力が低下してしまった方などを対象とした講座です。聴覚障害者のコミュニケーションに関するさまざまなことを学びます。ヒアリンググループ、要約筆記、手話通訳が付きます。どなたでも参加できます。

	日 時	テーマ	内 容	講 師
1	9月29日（土） 13時30分～16時	聴覚障害者が生き生きと働くために	聴覚障害は外見に表れにくい障害のため、職場や社会において周囲の理解を得ることが難しい。コミュニケーションに問題が生じ、転職を余儀なくされる現状もある。聴覚障害者の雇用や職場に関する現状を知り、問題点やその対処方法を学ぶ。	株式会社UD ジャパン 社長 内山 早苗
2	10月6日（土） 13時30分～16時	補聴器を正しく使って快適に 	補聴器の機能や役割を正しく理解することによって装用効果を高めることができること、補聴器のユーザーとして、補聴器の聞こえには限界があることについても知っておく必要がある。周辺機器の利用の仕方についても学ぶ。	認定補聴器技能者 日本補聴器技能者協会教育研修委員会 委員 柴田 治
3	10月27日（土） 13時30分～16時	ヒアリンググループについて学んでみよう	ヒアリンググループは、補聴器、人工内耳装用者の聞き取りに、非常に効果を発揮する補聴援助機器の一つである。利用者として、ループの仕組みや、上手な利用の仕方を学ぶ。	株式会社ソナール 社長 佐野 英一
4	11月17日（土） 13時30分～16時	人工内耳の潮流～聞こえの仕組みからアフターケアまで～	重度難聴者の治療として開発された人工内耳は、難聴者の1万人以上が装用するようになった。難聴者の人工内耳に対する関心が高まっている。人工内耳の歴史、適応、術前後の流れ、人工内耳の基本等について学ぶ。	国立病院機構東京医療センター 耳鼻咽喉科 医長 南 修司郎
5	12月15日（土） 13時30分～16時	演劇界の字幕元年	障害があっても、自由に観劇を楽しみたいと考えている人は少なくない。しかし、現在の観劇のシステムは、障害者が自由に観劇を楽しめる形態にはなっていない。障害があっても、観劇を楽しめる環境づくりについて考える。	シアター・アクセシビリティ・ネットワーク 理事長 廣川 麻子
6	1月26日（土） 13時30分～16時	手話 ～音声と共に表す～	中途失聴・難聴者が使う手話は、日本語に対応させた表現が求められる。聴覚補償、読話とあわせて手話を読み取り、自らは発話しながら手話表現する。なぜこのような音声と共に表す手話表現が求められるのか等について考える。	渋谷区中途失聴・難聴者友の会 代表 坂山 己世
7	3月2日（土） 13時30分～16時	耳の病気の現在 ～再生医療の動向も含めて学ぶ～	再生医療の着実な成果が伝えられているが、聴覚障害者がその具体的な動向を学ぶ機会は少ない。「iPS細胞を用いて“内耳変性”という難聴の新たな原因と、その治療薬候補物質を発見」研究の紹介と、聴覚の再生の今後について学ぶ。	慶應義塾大学医学部生理学教室 教授 岡野 栄之

1. 主催
東京都教育委員会
(委託 特定非営利活動法人
東京都中途失聴・難聴者協会)

2. 対象
都内の聴覚障害者等 各回 50名

3. 申し込み方法
当日、会場で受け付けます（先着順）

4. 参加費
無 料

5. 会 場
東京都障害者福祉会館
〒108-0014 港区芝5-18-2

6. 問合せ先
■東京都教育庁地域教育支援部生涯学習課
〒163-8001 新宿区西新宿2-8-1
電 話：03-5320-6857
FAX：03-5388-1734
メールアドレス
S9000027@section.metro.tokyo.jp

■特定非営利活動法人
東京都中途失聴・難聴者協会
〒160-0022 新宿区新宿2-15-25
カテリーナ御苑202
電 話：03-5919-2421
FAX：03-5919-2563

※録音、写真撮影、音声認識の記録機能使用は
ご遠慮ください。
※台風等、荒天の場合は中止することもあります